

ご挨拶

## — 作業療法を もっと身近に —

長野県作業療法士会広報誌『らしく』を御覧いただき、  
ありがとうございます。

1965年に理学療法士および作業療法士法が制定されて  
以来、私たち作業療法士は病院やさまざまな施設を中心に「心と体のリハビリテーション」  
に取り組んでまいりました。近年、高齢者人口の増加などによるリハビリテーションへの期  
待の高まりもあって、その数は着々と増加しています。現在、全国には6万人を超える作業  
療法士国家資格取得者がいます。本会には長野県内に勤務する約1,000名の作業療法士が所  
属しています。

さて、皆さんはリハビリテーションにどのようなイメージを持っていますか？一般には病  
気や障がいで動かし難くなった手足を動かせるようにするなど、運動機能の回復というイ  
メージが強いように思います。確かにそれはとても重要なことですが、リハビリテーション  
において一番大切なのは「自分らしい生き方」を取りもどす、新たに見つけることです。作  
業療法ではその人にとって意味のある作業を使ってリハビリテーションを行います。この作  
業とは、手工芸や木工・陶芸といった手作業だけではなく、日常生活の諸動作や仕事・  
社会奉仕などの社会的活動、音楽・遊び・スポーツといった余暇活動…これらすべてを指し  
ます。生きていくために必要な作業すべてが作業療法の手段や目標になるのです。作業療法  
士は、その人の心と体の状態を見極め、その人らしく生きていくために何が必要なのかを考  
え、その人の人生・生き方に適合する作業を用いた支援を行います。人は作業をすることで  
元気になるのです。

このたび創刊しました本誌『らしく』は、作業療法士の仕事と本会の活動を県民の皆さま  
に広く知っていただくための広報誌です。本誌を通して作業療法（士）をもっと身近に感じ  
ていただければ幸いです。今後は年1回のペースで発刊し、皆さまのお役に立つ情報を積  
極的に発信してまいります。今後とも本会へのご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。



一般社団法人長野県作業療法士会  
会長 青木 朗  
(介護老人保健施設 ハーモニー)  
作業療法士

### 広報誌名「らしく」にかける想い

一度きりの人生です。「自分らしく生きる」ことにこだわっていいと思います。  
「自分らしく生き、貢献できる」ことを共に考え、あなた「らしく」を紡いであなたの「くらし」を  
創るための力になれる作業療法（士）であるように、「らしく」としました。  
あなたらしく、らしくらしくらし…。ほら、「くらし」が見えませんか？



今 **あなた**は、この世に生きていくために取り回しを過しています  
途中でお風呂に水を入れていたのを思い出して止めたに行ったり  
夕食の準備が整ってテーブルについたときがもしもれませんか  
ある方々のひと時を切り取って見ましたが  
**作業療法**ではこれらの一つ一つの行為を作業と捉えます  
**人の生活**は作業の連続で形作られているのです  
**作業療法**では人の生活を形作る作業の特性を分析し  
その人にとって意味のある作業を考え発見し  
その人らしい生活の実現を目指します